

## 「まちづくり」なんて考えたことがない?!

—まずは皆さんが、観光まちづくりを始めたきっかけを教えてください。(以下敬称略)



**國馬:**私は町田市出身で、町田さくらまつり実行委員会恩田川部会の一員として「町田さくらまつり」の企画・運営に携わったり、町田商工会議所の工業部会に所属して市の商工業発展に微力ながら努めてきましたが、実はまちづくりをしているなんて考えたことは、ありませんね。



**神谷:**私は約40年前に市外から越してきて、町田の緑に魅了されました。その後、イギリスでの人と緑が共存する「緑のまちづくり」の取り組みを母から聞いて感銘を受け、自分でもやってみたくて。町田の緑にはオンリーワンの魅力があり、そこを歩いて、体験してもらう。その結果として地元が元気になる活動を目指したんです。当時は、「観光まちづくり」なんて言葉はなく、意識せずに観光によるまちづくりを始めたんです。



**山崎:**私は関西から来て小野路町に住み始めて、すぐに町内会の役員になったんです。当時、小野路町には墓地为次々と作られていて、まちの大きな課題となっていました。そこで昔からの住民の皆さんと一緒に声をあげたのが、今思えばまちづくり活動の始まりでした。課題を解決するために、昔からの住民と外から来た住民とが、一緒になって取り組んできたのです。そんなときでも、特に「まちづくり」という言葉を意識したことはありませんでした。

**神谷:**「観光まちづくり」と大きく目標を掲げるのも大事ですが、とにかく周りを巻き込んでやりたいことをやること。これが結果的に「観光まちづくり」につながるんだと思います。

## 「ファンづくり」は観光まちづくり

—それぞれの取り組みを進める中で印象に残っているエピソードを教えてください。

**國馬:**物事を進めていく際に、最も大切なのは「自分たちが楽しむこと」です。町田さくらまつ



(特) みどりのゆび編集・発行/市監修の「まちだフットパスガイドマップ」は、まちの案内所「町田ツーリストギャラリー」(☎850・9311)他で販売しています。

りの企画・運営をする中で、東日本大震災の復興支援を目的として、父の地元である福島県三春町の「滝桜(※1)」の子孫樹の寄贈を受けて育てることと、三春町の野菜などをさくらまつりで来場者へ紹介することを亡き父が提案しました。たくさんの方が滝桜や三春町の野菜で笑顔になってくれるのを見て、自分もうれしくなりました。自分が楽しいと思えることは周りの人たちに伝染し、つながりになるのだと実感しました。

一方で、恩田川部会の主要メンバーである地元商店街の高齢化が進んでいて、これら「観光まちづくり」の取り組みを継続するためには、次の世代へ人脈を広げていくことが重要だと思います。

**神谷:**私が一番大変だったことは、地元住民に自分の活動を理解してもらうことでした。当時、「緑は金を生まない」という考え方が一般的で、町田の緑を生かした私たちの活動もなかなか理解してもらえませんでした。そこで、まず何かやってみようと考え、「100人フットパス(※2)」を開催しました。

このイベントの中で、地元のお母さんたちに料理をふるまったり、くつろいでもらう環境を整えたりなど、「おもてなし」を頼んだんです。するとこれが、外から来た人にも地元住民にも好評で、地元住民と外から来た住民の交流を生んだんです。この経験から私は、何かきっかけがあれば交流は生まれ、交流することでまちがつけられるんだと実感したんです。

**山崎:**私も当初は、昔からの住民と外から来た住民との認識のずれを感じました。ささいなことでトラブルになってしまうケースが多かったです。しかし、何度も話をし、やりとりをしていくうちに、まちを良くしようという気持ちは一緒なんだと気づきました。それから、地元の皆さんとの交流をより大切にしようと思うようになったのです。

交流館を運営するときが一番心掛けていることは、「笑顔」です。笑顔の分だけ理解者・賛同者が増えていく。そういった「ファンづくり」をしていくことが、「観光まちづくり」につながると思います。

## 観光×まちづくり=交流と感動!

—これから町田がするべきこと、町田に必要なと思うことを教えてください。

**國馬:**「観光まちづくり」をしていく中で、後継者の問題や世代間の考え方の違いなど、避けては



通れない問題もあると思います。ただ、「自分のまちを良くしたい!」という気持ちはみんな一緒なので、それぞれのベクトルを合わせていくことが重要ですね。そのパイプ役になる人材を増やしていくことが、今後の課題だと思います。

**山崎:**國馬さんくらいの年齢の人が頑張ってくれれば、上にも下にもいい影響があってありがたいよね。

**神谷:**「観光まちづくり」をやりたいと思っている人は、実はたくさんいるのではないかと思います。でも、そういう方々を集約する組織がまだまだ少ないんです。行政と連携しながら地域住民による「おもてなし」を組織的に行うことで、市内外・国内外の方との交流が生まれ、更なる感動が生まれると思います。

**山崎:**神谷さんの言う通り、地域住民が「おもてなし」の精神を持つことは大切だと思います。ただ、ボランティア精神でずっと続けていくことは難しいと思うので、地域が自分たちでお金を稼いでいくという「経営的な視点」を持つことを忘れてはいけません。

**神谷:**私のフットパスの経験でもそうですね。地元のお母さんが継続的にやる気になってくれたのは、イベント参加費という形で「おもてなし」がお金になったことも大きかったんじゃないかな。

**山崎:**自分たちの活動を理解してもらうには継続することが必要ですが、それにはお金がかかります。いろいろな成功事例を参考に自分たちで「お金を生む仕組み」を考え、ああでもない、こうでもない話し合っていくことで、さまざまな交流が生まれると思います。そして、一つの大きな花を咲かせることができれば、自分たちの達成感につながり、それを見た人に感動を与えることができる。またその感動を誰かに伝えてもらう。このサイクルこそが、「ファンづくり」であり、町田市の目指す「交流感動都市まちだ」につながるのではないかと思います。

—ありがとうございました。これからも、一緒に町田を盛り上げていきましょう!

※1: 大正11年に国の天然記念物に指定された、日本三大桜の一つ

※2: 2008年3月に小野路町で行われた大規模フットパスイベント

## 観光まちづくりや今回お話を伺った皆さんの活動に興味がある方はこちらへ!



○町田さくらまつり恩田川会場では國馬さんが活躍中! 8面の「2019町田さくらまつりウィーク」の記事をご覧ください。



○神谷さんが事務局長を務める(特)みどりのゆびがガイドをしてくれます 7面の「小野路桜ガイドウォーク」の記事をご覧ください。



○小野路宿里山交流館では館長の山崎さんがお出迎え! 7面の「うどん作り教室」「春の里山草花観察会」の記事をご覧ください。